

令和5年5月31日発行



こぶし

学校だより 6月号
東久留米市立第十小学校
校長 樋口 由紀子

「空気の教育」 ～くり返し、くり返しが力になる～

副校長 菅原 康人

先日、5月27日（土）、無事に運動会が行われました。どの種目もよかったのですが、やはり、1，2年生の「みんなと最強☆」、3，4年生の「花笠ロックビート」、5，6年生の「The sky is the limit.」の表現運動が素晴らしかったです。心を一つに力を合わせた精一杯の演技に、心動かされました。保護者の皆様、地域の皆様、多数のご参観、声援、励ましのお言葉をありがとうございました。

さて、一冊の本を紹介したいと思います。私が教師となる志をもち、実際に教師となり、そして現在も、私の教師としての考えの原点となる本です。著者は、お茶の水女子大学名誉教授であった外山滋比古先生です。この本は、1983年（昭和58年）に書かれ、1989年（昭和64年）に文庫本化された本で、2011年（平成23年）に旧版の一部を削り、加筆修正され出版された本です。昭和と聞くと、大分前の本のような気がしますが、大人として、教師として、親として、忘れてはいけないことが書かれた本であると思っています。

内容を少し紹介します。『学校は、先生と授業で教育するが、それだけではない。目に見えない空気が、教室の勉強に劣らぬ教育をする。そのことに親はもちろん、教師自身も気付いていない。薫陶というのは、そういう空気によって、いつとはなしに感化されておこる教育の効果である。例えば、出身校によって共通のタイプができるのは、学校に吹いている校風という空気に薫陶されたと考えてよい。先生との時間が短かったとしても、校風という空気は、そこに学ぶものをたえず包む。学校から帰ってからも離れることはない。こうしていつのまにか人間をつくり上げる。雰囲気である。空気が、もっともっと、ものを言うのが家庭である。食事のときに、“いただきます”と言う。昨日も、今日も言った、明日も。これがずっと続くとやがてだまって食事をすることができなくなる。はたから注意をする必要はなくなる。くり返し、くり返し何年も続けることで、はじめて、雰囲気、空気がかもし出される。』（空気の教育より）現在、あまり使わなくなった言葉ではありますが、この空気を、別の言葉で表すならば「校風」、「家風」となります。学校での毎日の指導、ご家庭での毎日の習慣、くり返しが子供たちの力、当たり前のことを当たり前でできる、につながっていきます。学校と家庭と地域が協力し合い、くり返し、くり返し、指導することで、自分の力でしっかりと生きていける子供たちにしていきたいと考えています。第十小学校、51年の歴史の中でつくられてきた「校風」は、子供たちにどんな影響を与えているのでしょうか。今、現在だけでなく、将来『この学校で本当によかった』と子供たちに思ってもらえる学校になるよう、我々教職員一同、くり返し、くり返しの「空気の教育」を大切にしたいと考えています。

お米パワーを見つけよう!

5年担任 檀原美佐子
福本 将

5年生は、総合的な学習の時間で『お米パワーを見つけよう!』という学習を進めています。ご家庭や給食で普段から口にしているお米ですが、実際に育てたことがある子はほとんどいなく、「自分たちで育てるのが楽しみ。」「早く学習したいな。」と学習を心待ちにしていました。

5月18日(木)に、pal☆systemの方をお招きして、第一回目の学習を行いました。「今日の朝にお米を食べた人?」との質問に4割程度の子しか手が上がらなかったことに「思ったよりもお米を食べている人は少ないのか。」「そういえばパンを食べていることが多いかも。」と、多くの子が問題意識をもつことができました。良い土づくりのためにバケツの中に土や肥料、水を入れてかき混ぜました。独特の土の感触に抵抗のある子もいましたが、慣れてくると夢中でかき混ぜて「良い感触だ。」「ずっと混ぜていられる。」など楽しみながら取り組みました。土づくり後に稲を植えて学習終了。今後は毎日水やりのお世話をしていきます。学習の最後にpal☆systemの方から「おうちの方やお店、給食で準備されたお米は残さず食べてくださいね。」と、お話がありました。子供たちは真剣な表情でうなずき、給食時には「残さず食べよう。」「今日は完食できました。」とすぐに行動しており、非常に立派でした。

1学期から2学期初め頃までは毎日水やりを行い、秋に収穫をします。その後は脱穀や精米を自分たちの手で行い、育てたお米を自分たちで調理して食べる予定です。お米を育てる大変さや喜びを感じながら、学習に取り組んでほしいです。



受け継がれる地域の宝 柳久保小麦

4年担任 浪間剛 折笠楓太

4年生は、一学期の総合的な学習の時間で、「柳久保小麦」について学習します。3年前に近くの下里小学校と統合し、下里小学校で行っていた学習を引き継いで十小で行うことになりました。「柳久保小麦」と聞いてもどのような小麦なのか知らない子供たちも多いと思います。そこで、第一回目の授業では、実際に普通の小麦と柳久保小麦を比べてみました。すると、「ながーい!」「こんなに違うの?」と大きく反応していました。普通の小麦は80cmくらいですが、柳久保小麦は120~140cmくらいになるそうです。「実際に畑に行きますよ。」と言うと、「やったー!」と喜んでいました。

5月11日(木)に4年生は柳久保小麦の畑に行きました。畑では柳久保小麦を育てている奥住弘子さんが待ってくださっていました。奥住弘子さんに、畑の紹介をしていただいた後、しばらく畑の中を歩きました。小麦の色を見たり、小麦のにおいをかいだりしました。最後に奥住弘子さんに疑問に思ったことを質問しました。学校に戻って各クラスで振り返りを書きました。子供たちから、多くの気づきがありました。

○柳久保小麦が昔から受け継がれていると知ってびっくりしました。ぼくの身長よりも高いなと思いました。

○柳久保小麦の畑はとても広くて、においは小麦粉のにおいとそっくりでした。

○麦(の穂)がななめになっていて、育てるのが大変そうだった。畑の範囲が広くてびっくりした。

○柳久保小麦を買ったことがあるので生で見られてとてもわくわくしました。また奥住弘子さんに会いたいです。



～新型コロナウイルス感染症が5月8日より5類になりました～

5月8日付で新型コロナウイルス感染症が5類になりました。およそ3年間の間、保護者の皆様には毎朝の健康観察、健康チェックカードの記入など様々なことにご協力いただきありがとうございました。子供たちも毎日マスクの着用、ソーシャルディスタンス、手洗い、手指消毒など、学校生活上の制約を受けながらも頑張ってくれました。ようやく日常の学校生活が戻ってきております。3年もの間、マスクを着用していたので、まだマスクをしていないと落ち着かない児童が多いようです。児童の気持ちを尊重しながら、マスクをせずにお互いに表情が見えるような日々に戻るとよいと思っております。熱中症も心配ですので、暑い時は積極的にマスクを外すよう声をかけていきます。

新型コロナウイルス感染症の流行は落ち着きましたが、春先にはインフルエンザが流行しました。全国的にも集団感染した地域があるようです。

新型コロナウイルスだけでなく、その他の感染症が今後流行するおそれもありますので、引き続き学校では感染症流行防止に努めてまいります。引き続きご協力をお願いいたします。



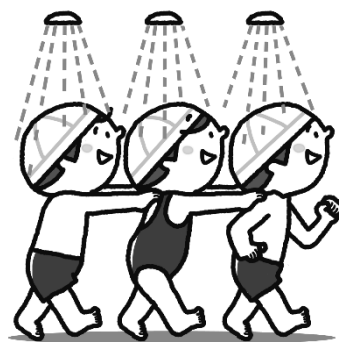
養護教諭 弦間 紫乃

安全に!楽しく!上達しよう!!

体力向上部 黒崎祐子

運動会も終わり、次はいよいよ水泳のシーズンとなります。本校では、**6月12日(月)**より水泳指導が始まります。水泳の学習は、今年度も学年単位で行います。5月30日(火)に配布された「水泳指導について」「水泳指導参加について」の手紙をよくお読みになって、**6月6日(火)までに参加申込用紙をご提出ください。**

低学年は、様々な遊びを通して、水の中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりするなど、水に慣れることを目的としています。中学年は、浮いたり泳いだりすることの楽しさや心地よさを味わい、泳ぐための手や足の動きを身に付けていきます。高学年になると、クロールや平泳ぎを習得します。



泳法のポイントを理解し、上手に泳ぐことや泳ぐ距離を伸ばすことを目標に、学習に取り組んでいきます。

水泳は、ちょっとした不注意が大きな事故につながる場合があります。安全に十分注意を払いながら、楽しんで泳ぎ、子供たちの泳力を伸ばしたいと考えております。

安全な水泳指導への参加のために、保護者の皆様には、お子さんの体調管理とともに、プールカードへの**押印**（今年度はサインでも可）・**検温**や水着・水泳帽子など**持ち物の用意**などをお願いいたします。また、定期的に**爪切り**と**耳掃除**もお願いいたします。

